

夏目漱石「夢十夜 第一夜」テスト対策練習問題と過去問まとめ

| 年 | 組 | 番 | 名前 |
|---|---|---|----|
|---|---|---|----|

問1 「夢十夜」の作者として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：夏目漱石
- イ：芥川龍之介
- ウ：梶井基次郎
- エ：森鴎外

問2 「夢十夜」の作品形式としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：一人の人物の一生を年代順に描いた長編小説
- イ：十の夢を描いた短編連作
- ウ：歴史上の事件を記録した文章
- エ：短歌を集めた歌集

問3 「第一夜」の語り手として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：女
- イ：百合
- ウ：自分
- エ：僧侶

問4 「第一夜」の冒頭の一文として正しいものを次の中から一つ選び○で囲みなさい。

- ア：えたいの知れない不吉な塊があった。
- イ：吾輩は猫である。
- ウ：山路を登りながら、こう考えた。
- エ：こんな夢を見た。



問5 「瓜実顔」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：瓜の種のように、細長く上品な顔立ち
- イ：大きく丸い顔立ち
- ウ：怒っている顔つき
- エ：幼く見える顔つき

問6 「眸」の読み方として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：まぶた
- イ：ひとみ
- ウ：まつげ
- エ：ほお

問7 「睫」の読み方として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：かみ
- イ：くちびる
- ウ：まつげ
- エ：ひとみ

問8 本文で「星の破片」はどのように読ませているか。正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：ほしのはへん
- イ：ほしのかけら
- ウ：ほしのきれ
- エ：ほしのかけ



問9 本文で「墓標」はどのように読ませているか。正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：はかじるし
- イ：ぼひょう
- ウ：はかいし
- エ：しるし

問10 「判然」の読み方として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：はっきり
- イ：はんぜん
- ウ：ばんぜん
- エ：ほうぜん

問11 「唐紅」の読み方として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：からくれない
- イ：とうこう
- ウ：からべに
- エ：あかくれない

問12 「接吻」の意味として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：深く考えること
- イ：墓を作ること
- ウ：星を見ること
- エ：口づけをすること



問13 女が「自分」に告げたこととして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：もう死にます
- イ：旅に出ます
- ウ：ここを去ります
- エ：夢から覚めます

問14 女の外見について、本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：すでに骨だけになっている
- イ：白い頬に温かい血の色が差し、唇も赤い
- ウ：激しく泣き叫んでいる
- エ：顔がまったく見えない

問15 女の黒い眸について、正しい説明を次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：何も映っていない
- イ：星の破片だけが映っている
- ウ：「自分」の姿が鮮やかに映っている
- エ：百合の花だけが映っている

問16 女が「自分」に頼んだこととして、もっとも中心になるものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：自分のことを忘れてほしい
- イ：すぐに旅に出てほしい
- ウ：誰にも話さないでほしい
- エ：百年待っていてほしい



問17 「百年待っていて下さい」の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：女との約束を信じ、死をこえて長い時間待つことを求める言葉
- イ：すぐに墓を離れるよう命じる言葉
- ウ：百年後に必ず怒るという予告
- エ：ただ時間を計算するだけの言葉

問18 女が死ぬ場面の描写として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：女は急に起き上がって走り出す
- イ：女の瞳の中の「自分」の姿が崩れ、目が閉じる
- ウ：女は星の破片を投げる
- エ：百合の花がすぐに枯れる

問19 女は、自分が死んだら何で穴を掘るよう頼んだか。正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：鉄の鍬
- イ：木の枝
- ウ：大きな真珠貝
- エ：百合の茎

問20 「自分」が墓標にしたものとして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：星の破片
- イ：真珠の首飾り
- ウ：百合の葉
- エ：赤い太陽



問21 真珠貝で穴を掘る場面の描写として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：太陽の光で真珠貝が燃える
- イ：真珠貝がすぐに割れてしまう
- ウ：星の破片が土の中で消える
- エ：真珠貝の裏に月の光が差してきらきらする

問22 星の破片を抱き上げたとき、「自分」に起こったこととして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：胸と手が少し暖かくなった
- イ：急に夢から覚めた
- ウ：目が見えなくなった
- エ：星の破片が消えた

問23 「自分」はどこで百年を待ち始めたか。もっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：海の上
- イ：苔の上、墓のそば
- ウ：城の中
- エ：百合の花の中

問24 百年を待つ間、「自分」が何度も数えたものとして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：百合の花びら
- イ：真珠貝の数
- ウ：赤い日が東から出て西へ沈むこと
- エ：女の涙の数



問25 百年を待つうちに、「自分」が感じ始めたこととして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：女にだまされたのではないか
- イ：百合が嫌いになった
- ウ：星の破片を捨てたい
- エ：墓を別の場所へ移したい

問26 墓の下から伸びてきたものとして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：赤い炎
- イ：黒い鳥
- ウ：青い茎
- エ：金色の糸

問27 最後に咲いた花として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：桜
- イ：白い百合
- ウ：菊
- エ：椿

問28 百合の香りについて、本文に合う説明を次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：何の匂いもしない
- イ：土の匂いに完全に消される
- ウ：骨に徹えるほど強く匂う
- エ：すぐに消えてしまう



問29 「自分」が百合の花弁にした行動として正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：接吻した
- イ：切り取った
- ウ：燃やした
- エ：土に戻した

問30 結末で空に見えるものとして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：赤い月
- イ：黒い雲
- ウ：燃える太陽
- エ：暁の星

問31 「百年はもう来ていたんだな」の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：百年を待たずに逃げ出したことに気づいた
- イ：女との約束の時間が満ちたことに気づいた
- ウ：百年後にも女は現れなかったと怒った
- エ：星の破片が本物ではないと分かった

問32 百合の花が象徴するものとしてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：女の再生や、約束が果たされたこと
- イ：「自分」が女を忘れたこと
- ウ：夢が完全に消えたこと
- エ：墓がなくなったこと



【本文】

こんな夢を見た。

腕組をして枕元に坐っていると、仰向に寝た女が、静かな声でもう死にますと云う。女は長い髪を枕に敷いて、輪郭の柔らかな瓜実顔をその中に横たえている。真白な頬の底に温かい血の色がほどよく差して、唇の色は無論赤い。とうてい死にそうには見えない。

問33 この物語が夢として語られることを示す冒頭の一文を、本文中から抜き出しなさい。

問34 女が自分の死を告げた言葉を、本文中から抜き出しなさい。

問35 女が「とうてい死にそうには見えない」とされる理由を、本文に即して説明しなさい。

【本文】

自分はそれを聞いて、いよいよ死ぬなと思った。すると女は静かな声で、百年待っていて下さいと云った。百年、私の墓の傍に坐って待っていて下さい。きっと逢いに来ますから。

問36 女が「自分」に待つよう頼んだ時間を、本文中から抜き出しなさい。

問37 女が「自分」に待つ場所として示したところを、本文中から抜き出しなさい。



問38 女の「きっと逢いに来ますから」という言葉は、何を意味していると考えられるか。説明しなさい。

【本文】

自分は庭へ下りて、真珠貝で穴を掘った。真珠貝は大きな滑かな縁の鋭どい貝であった。土をすくうたびに、貝の裏に月の光が差してきらきらした。湿った土の匂もした。

穴はしばらくして掘れた。女をその中に入れた。それから柔らかい土を、上からそっと掛けた。掛けるたびに真珠貝の裏に月の光が差した。

問39 「自分」が穴を掘るのに使ったものを、本文中から抜き出しなさい。

問40 真珠貝の裏に差したものを、本文中から抜き出しなさい。

問41 この場面で、視覚以外の感覚として描かれているものを、本文中から抜き出しなさい。

【本文】

自分は苔の上に坐った。これから百年の間こうして待っているんだと考えながら、腕組をして、丸い墓石を眺めていた。そのうちに、女の云った通り日が東から出た。大きな赤い日であった。それがまた女の云った通り、やがて西へ落ちた。赤いまんまでのっと落ちて行った。一つと自分は勘定した。

問42 「自分」が座った場所を、本文中から抜き出しなさい。

問43 「自分」は何を一つと勘定したのか。本文に即して説明しなさい。



問44 この場面から、「百年を待つ」とはどのようなことだと分かるか。説明しなさい。

【本文】

すると石の下から斜に自分の方へ向いて青い茎が伸びて来た。見る間に長くなってちょうど自分の胸のあたりまで来て留まった。と思うと、すらりと揺ぐ茎の頂に、心持首を傾けていた細長い一輪の蕾が、ふっくらと弁を開いた。真白な百合が鼻の先で骨に徹えるほど匂った。

そこへ遥の上から、ぽたりと露が落ちたので、花は自分の重みでふらふらと動いた。自分は首を前へ出して冷たい露の滴る、白い花弁に接吻した。

問45 石の下から伸びてきたものを、本文中から抜き出しなさい。

問46 咲いた花の名前を、本文中から抜き出しなさい。

問47 百合の匂いの強さを表す表現を、本文中から抜き出しなさい。

問48 「自分」が白い花弁にしたことを、本文中から抜き出しなさい。

問49 百合の花は、作品の中でどのような意味を持つと考えられるか。説明しなさい。



問50 「こんな夢を見た。」という書き出しの効果としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：物語が夢の世界として始まることを示し、不思議な出来事を受け入れやすくする
- イ：現実の事件であることを強調する
- ウ：作者の旅行記であることを示す
- エ：物語の結末をすべて説明する

問51 真珠貝・月光・星の破片・百合などの表現に共通する効果としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：物語を現実の裁判記録のようにする
- イ：夢らしい幻想的で美しい雰囲気を作る
- ウ：登場人物の職業を説明する
- エ：季節を春に限定する

問52 「第一夜」の主題としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：商売で成功するための努力
- イ：旅先での失敗談
- ウ：死をこえて相手を思い続ける愛と、百合によって示される再生や約束の成就
- エ：武士の名誉と復讐

問53 「第一夜」を読むときの注意点としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア：すべてを現実の出来事として説明しなければならない
- イ：本文を読まずに結末だけ覚えればよい
- ウ：女は必ず百合に生まれ変わったと断定しなければならない
- エ：夢の物語なので、象徴や雰囲気を本文に基づいて読み取ることが大切である



問54 「第一夜」の心情・場面の流れとして正しいものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：死の予告 → 百年の約束 → 埋葬 → 待つ時間 → 疑い → 百合による気づき

イ：出会い → 結婚 → 戦争 → 帰郷 → 別れ

ウ：病気 → 旅行 → 手紙 → 友情 → 和解

エ：怒り → 復讐 → 勝利 → 反省

問55 「自分」が途中で女にだまされたのではないかと思うことの意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：女を最初から憎んでいたことを示す

イ：待ち続ける時間の長さや不安を示す

ウ：星の破片を失ったことを示す

エ：百合の花を見たことを忘れたことを示す

問56 「百年はもう来ていたんだな」という気づきについて、もっとも適切な説明を次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア：待つことをやめる決意をした言葉

イ：女を忘れたことを示す言葉

ウ：百合の開花によって、女との約束の時間が満ちたことを悟った言葉

エ：夢ではなく現実だったと証明する言葉



夏目漱石「夢十夜 第一夜」テスト対策練習問題と過去問まとめ (解答)

問1 ア

【解説】「夢十夜」の作者は夏目漱石だよ。「第一夜」は、十の夢のうち最初の話なんだ。

問2 イ

【解説】「夢十夜」は、「第一夜」から「第十夜」まで、十の夢を描いた短編連作だよ。

問3 ウ

【解説】「第一夜」は、「自分」が見た夢として語られているよ。「自分」は、女の死を見届け、百年待つ人物なんだ。

問4 エ

【解説】「第一夜」は「こんな夢を見た。」という一文で始まるよ。この一文によって、物語が夢の世界として始まることが示されるんだ。

問5 ア

【解説】「瓜実顔」は、細長く上品な顔立ちを表す語句だよ。女の美しさを表す描写として出てくるんだ。

問6 イ

【解説】「眸」は「ひとみ」と読むよ。女の黒い眸には、「自分」の姿が鮮やかに映っているんだ。

問7 ウ

【解説】「睫」は「まつげ」と読むよ。女が死ぬ場面では、長い睫の間から涙が頬へ垂れる描写があるんだ。



問8 エ

【解説】本文では「星の破片」を「ほしのかげ」と読ませているよ。一般的には「かけら」「はへん」と読むこともあるけれど、作品本文の読みを確認することが大切なんだ。

問9 ア

【解説】本文では「墓標」を「はかじるし」と読ませているよ。一般的な読みは「ぼひょう」だけれど、この作品では本文の読み方を押さえておこう。

問10 イ

【解説】「判然」は「はんぜん」と読むよ。意味は、明らかなようす、はっきりしていることだよ。「はっきり」は読みではなく意味なんだ。

問11 ア

【解説】「唐紅」は「からくれない」と読むよ。濃く鮮やかな紅色のことなんだ。

問12 エ

【解説】「接吻」は、口づけをすることだよ。「自分」は最後に、冷たい露の滴る白い百合の花弁に接吻するんだ。

問13 ア

【解説】女は「もう死にます」と静かに告げるよ。ただし、頬や唇には生きていたような美しさが残っていて、「自分」は女が本当に死ぬのか疑うんだ。

問14 イ

【解説】女は「もう死にます」と言うけれど、白い頬には温かい血の色が差し、唇も赤いんだ。死にそうに見えない美しさが印象的だよ。



問15 ウ

【解説】女の黒い眸には、「自分」の姿が鮮やかに映っているよ。この描写は、女がまだ生きているように感じられることや、二人の近さを印象づけているんだ。

問16 エ

【解説】女は「百年待っていて下さい」と頼むよ。この言葉が、第一夜全体の中心となる約束なんだ。

問17 ア

【解説】「百年待っていて下さい」は、死後も自分を忘れずに待っていてほしいという願い、また愛や信頼を試す約束として読めるよ。

問18 イ

【解説】女が死ぬとき、女の瞳に映っていた「自分」の姿がぼうっと崩れ、女の目が閉じるよ。長い暁の間から涙が頬へ垂れる描写も重要なんだ。

問19 ウ

【解説】女は、大きな真珠貝で穴を掘るように頼むよ。真珠貝は、白さや清らかさ、月光と結びつき、夢らしい幻想的な埋葬の場面を作っているんだ。

問20 ア

【解説】「自分」は、天から落ちてくる星の破片を墓標にするよ。本文では「星の破片」を「ほしのかげ」と読ませているんだ。

問21 エ

【解説】真珠貝で土をすくうたびに、貝の裏に月の光が差してきらきらするよ。幻想的で美しい埋葬の場面として大切なんだ。



問22 ア

【解説】「自分」が星の破片を抱き上げると、胸と手が少し暖くなるよ。星の破片は、冷たく遠いものというだけでなく、温かさを持つものとして描かれているんだ。

問23 イ

【解説】「自分」は、墓のそばの苔の上に座って百年を待ち始めるよ。待つ場所は、女との約束を守る場所でもあるんだ。

問24 ウ

【解説】「自分」は、赤い日が東から出て西へ沈むのを何度も数えるよ。太陽のくり返しによって、長い時間の経過が表されているんだ。

問25 ア

【解説】いくら待っても百年が来ないように感じられ、「自分」は女にだまされたのではないかと思いはじめよ。ここには、待ち続けることへの不安が表れているんだ。

問26 ウ

【解説】墓の下から青い茎が伸びてくるよ。その先に細長い蕾ができ、やがて白い百合の花が咲くんだ。

問27 イ

【解説】最後に咲くのは、真白な百合の花だよ。この百合は、女の再生や約束の成就を象徴すると読めるんだ。

問28 ウ

【解説】百合は「骨に徹えるほど」強く匂うよ。百合は、見た目だけでなく香りによっても「自分」に強く感じられる存在なんだ。



問29 ア

【解説】「自分」は、冷たい露の滴る白い花卉に接吻するよ。この行動は、百合を通して女と再会したような印象を与えるんだ。

問30 エ

【解説】結末では、遠い空に暁の星が一つ瞬いているよ。暁の星は、夜の終わりや新しい時間の始まりを感じさせる表現なんだ。

問31 イ

【解説】「百年はもう来ていたんだな」は、女との約束の時間が満ちたことに「自分」が気づいた言葉だよ。百合の開花によって、女の言葉が本当だったと感じられるんだ。

問32 ア

【解説】百合の花は、女の再生や、女との約束が果たされたことを象徴すると読めるよ。ただし、「必ず女が百合に生まれ変わった」と断定しすぎず、「～と読める」と説明すると安全なんだ。

問33 こんな夢を見た。

【解説】冒頭の「こんな夢を見た。」によって、これから語られる出来事が夢の世界のものだと示されるよ。そのため、現実ではありえない出来事も、夢の象徴として読むことができるんだ。

問34 もう死にます

【解説】女は静かな声で「もう死にます」と言うよ。一方で、頬や唇には生きているような色が残っていて、死にそうには見えないところが大切なんだ。

問35 真白な頬に温かい血の色が差し、唇も赤く、生きているような美しさが残っているから。

【解説】女は「もう死にます」と言うけれど、外見には生命感が残っているよ。生と死のあいだにいるような女の美しさが、幻想的に描かれているんだ。



問36 百年

【解説】女は「百年待っていて下さい」と頼むよ。百年は、現実的には非常に長い時間であり、夢の中の象徴的な時間として読むことができるんだ。

問37 私の墓の傍

【解説】女は「私の墓の傍に坐って待っていて下さい」と言うよ。「自分」は女の墓のそばで、女との約束を守るために待ち続けるんだ。

問38 死んだあとも、百年後に何らかの形で「自分」のもとへ戻ってくるという約束を意味している。

【解説】この言葉は、最後に墓から百合の花が咲く場面とつながるよ。百合は、女が約束どおり戻ってきたことを示すものとして読むことができるんだ。

問39 真珠貝

【解説】「自分」は真珠貝で穴を掘るよ。真珠貝は、現実的な道具というより、夢らしい美しさや清らかさを感じさせるものとして描かれているんだ。

問40 月の光

【解説】土をすくうたびに、真珠貝の裏に月の光が差してきらきらするよ。この描写によって、埋葬の場面がただ暗いものではなく、幻想的で美しいものとして描かれているんだ。

問41 湿った土の匂

【解説】「湿った土の匂」は嗅覚の描写だよ。夢の場面でありながら、土の匂いによって感覚的な現実味も加えられているんだ。

問42 苔の上

【解説】「自分」は苔の上に座り、墓石を眺めながら百年を待ち始めるよ。苔は長い時間や静けさを感じさせる表現としても読めるね。



問43 赤い日が東から出て、西へ沈んでいくことを一つと数えた。

【解説】「自分」は、太陽が昇り沈むことを数えながら百年を待つよ。太陽のくり返しによって、長い時間の経過が表されているんだ。

問44 女との約束を信じ、墓のそばで長い時間を耐えて待ち続けること。

【解説】百年は、ただ数字としての時間ではなく、女との約束を守るために待ち続ける時間だよ。愛や信頼を試す時間として読むこともできるんだ。

問45 青い茎

【解説】墓の下から青い茎が伸びてくるよ。この青い茎の先に、白い百合の花が咲くんだ。

問46 百合

【解説】最後に咲くのは真白な百合だよ。この百合は、女の再生や、女との約束が果たされたことを象徴すると読めるんだ。

問47 骨に徹えるほど

【解説】百合は「骨に徹えるほど」強く匂うよ。この表現によって、百合が「自分」に深く強く感じられる存在であることが分かるんだ。

問48 接吻した

【解説】「自分」は、冷たい露の滴る白い花弁に接吻するよ。百合を通して、女と再会したような印象を与える場面なんだ。

問49 女の再生や、女との約束が果たされたことを示す象徴として読める。

【解説】百合は、女の墓から咲く花だよ。女が「きっと逢いに来ますから」と言った約束が、百合の花によって実現したように描かれているんだ。



問50 ア

【解説】「こんな夢を見た。」によって、読者は最初から夢の世界として物語を読むことになるよ。そのため、百年待つことや墓から百合が咲くことも、夢の象徴として受け止めやすくなるんだ。

問51 イ

【解説】真珠貝、月光、星の破片、白い百合などは、夢らしい幻想的で美しい雰囲気を作っているよ。死や埋葬の場面も、ただ暗く怖いものではなく、美しく描かれているんだ。

問52 ウ

【解説】「第一夜」は、死にゆく女を「自分」が百年待ち、最後に百合の花によって約束が果たされたように感じられる物語だよ。死をこえた思い、待つこと、再生が大きな主題として読めるんだ。

問53 エ

【解説】「第一夜」は夢の物語だよ。だから、百合を女の再生や約束の成就の象徴として読むなど、本文の表現を根拠にしながら、断定しすぎずに考えることが大切なんだ。

問54 ア

【解説】「第一夜」は、女の死の予告、百年待つ約束、埋葬、長い待つ時間、疑い、そして百合による気づきへと進むよ。

問55 イ

【解説】「自分」は、いくら待っても百年が来ないように感じ、女にだまされたのではないかと思いはじめよ。これは、長い時間を待ち続ける不安を表しているんだ。



問56 ウ

【解説】「百年はもう来ていたんだな」は、百合の開花によって、女との約束の時間が満ちたと「自分」が悟る言葉だよ。静かで美しい結末を作っているんだ。

